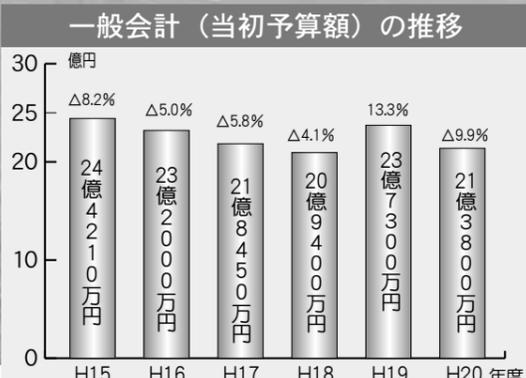


一般会計当初

20年度 村の予算は21億3,800万円



特別会計予算額 () 内は前年度比

| | | |
|------------|-------------------|------------------|
| ○国保事業 | 4億8,700万円 | (△6.5%) |
| ○国保診療施設事業 | 3億1,290万円 | (47.8%) |
| ○簡易水道事業 | 7,050万円 | (3.7%) |
| ○休養施設事業 | 9,340万円 | (13.8%) |
| ○老人保健事業 | 2,670万円 | (△89.6%) |
| ○漁業集落排水事業 | 2,590万円 | (△0.8%) |
| ○後期高齢者医療事業 | 2,640万円 | (皆増) |
| 総額 | 10億4,280万円 | (△10.6%減) |

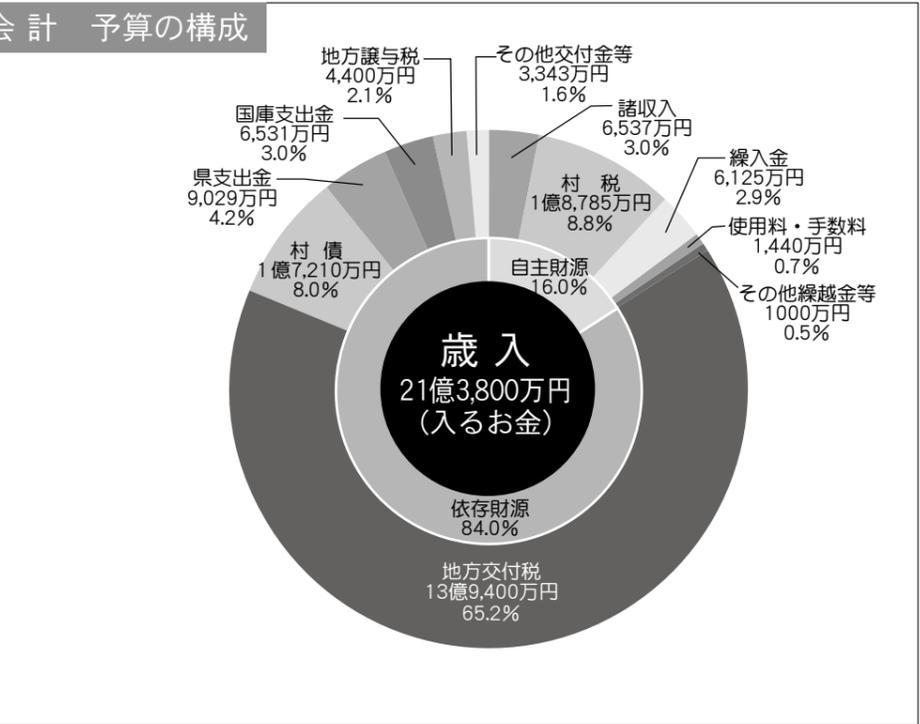
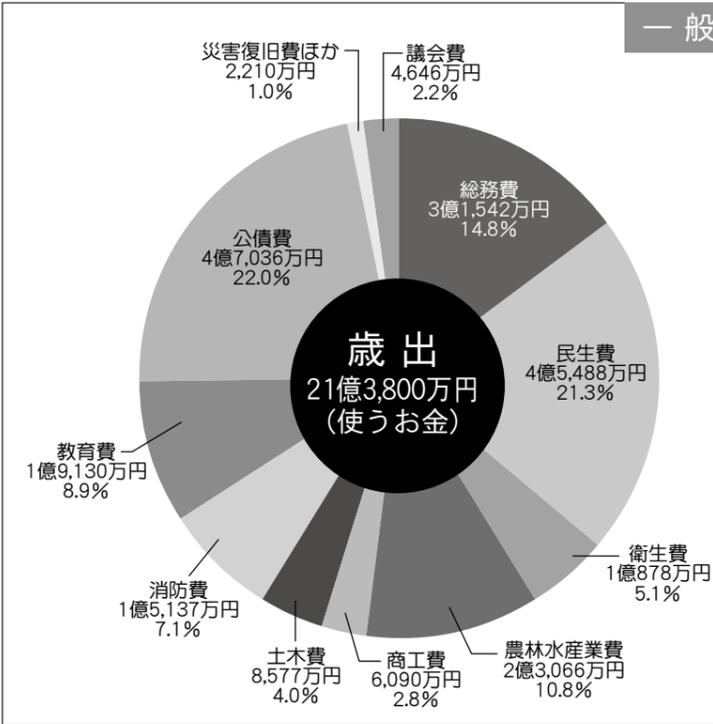
支出が多いものベスト5 (単位:万円)

| 順位 | 事業名等 | 事業費 | 財源内訳 | | | |
|----|---------------------|-------|-------|---------|-------|-------|
| | | | 国庫補助金 | 地方債(借金) | その他 | 村 |
| 1 | 県営普代地区農地開発事業債務負担金 | 6,861 | | 688 | 6,173 | |
| 2 | 広域漁港整備事業地元負担金(太田名部) | 3,500 | | 3,500 | | |
| 3 | 地域水産物供給基盤整備事業(白井漁港) | 3,000 | 1,500 | 1,500 | | |
| 4 | 村道堀内机線改良工事 | 2,400 | | 2,400 | | |
| 5 | 道路河川等災害復旧費 | 2,097 | | | | 2,097 |

20年度の主な事業と予算 (単位:万円)

支出科目、事業名等【予算額】

- ◆総務費▷緑区自治会・堀内地区自治会コミュニティ事業助成金【330】▷ふだいまるごと海産まつり実行委員会補助金【200】
- ◆民生費▷障害者等自立支援費【5,426】▷久慈広域連合負担金(介護)【4,515】▷岩手県後期高齢者医療広域連合分担金【2,174】
- ◆衛生費▷資源リサイクル活動助成金【12】
- ◆農林水産業費▷広域漁港整備事業地元負担金(太田名部漁港)【3,500】▷磯資源高度活用事業補助金【200】▷地域水産物供給基盤整備事業(白井漁港)【3,000】
- ◆商工費▷ふだいまる手作り山車整備事情補助金【340】▷観光インフォメーション事業補助金【200】
- ◆土木費▷村道堀内机線道路改良工事【2,400】
- ◆教育費▷スクールバス購入費【600】▷普代小学校耐震補強設計業務委託料【460】▷普代小学校安全安心学校づくり事業【300】▷小中学校パソコン借上料【1,120】



事業の緊急性、優先度を重視し 幸せを実感できる村づくり

平成20年度の当初予算が3月定例会で決まりました。一般・特別会計を合わせた予算額は31億8080万円、一般会計は21億3800万円となっています。前年度と比べ9.9%の減額ですが、財政の健全化を最重要課題に、事業の緊急性や優先度を重視し、小学校統合にかかる事業や漁業振興などを展開します。村民の皆さんが幸せを実感できる希望の村づくりのため編成された、村の新しい予算のあらましを紹介します。

地方交付税が収入の約6割

平成20年度の一般会計予算は、歳入歳出ともに21億3800万円、前年度に比べ2億3500万円、9.9%の減となりました。主に災害復旧費分が減額されました。

歳入(収入)は本来、税収だけで賄うのが理想なのですが、上の歳入のグラフを見ると分かるように、村税は1億8785万円と全体の8.8%に留まっています。

では歳入の一番はというと、国からの地方交付税が13億9400万円と全体の65.2%を占めています。続いて

多いのが村税の1億8785万円(8.8%)、村債の1億7210万円(8%)、県支出金の9029万円(4.2%)となっています。

もう一度上のグラフを見てください。歳入には依存財源と自主財源があります。

地方交付税や国庫支出金、県支出金などの依存財源は84%を占めています。これに対し村税や諸収入などの自主財源は16%となっています。

国でも膨大な財政赤字の累積などから今後、地方交付税が増えることは難しい状況です。このため村では、特産品の開発など新たな自主財源の確保に努めています。

福祉サービス1億2千万増

次は上の表で歳出(支出)を見てみます。歳出を目的別に見ると、国や県などへの借金返済のための公債費が最も多く4億7036万円(22%)となっています。

これは漁港や役場庁舎などを建設した際の借金の返済分です。この公債費は行財政改革プログラムにより計画的に借入れを返済しているもので、年々減っています。

続いて多いのは、少子高齢化社会に対応した子育て支援、福祉サービスなどの民生費4億5488万円(21.3%)、3番目に多いのは村有財産管理や役場庁舎などの管理のための総務費3億1542万円(14.8%)です。総務費は電気、電話、水道、コピーの使用料など徹底した経費節減などで前年度より1364万円少なくなっています。

特別会計は一般会計と区別して経理した方がいいものを、特別会計としています。全部に共通するのが、料金収入があるということです。

20年度の村の7特別会計(左上表)の予算総額は10億4280万円、前年度と比べ10.6%減になっています。